

研究タイトル：

人と情報・人工物との社会的相互作用



氏名：	安藤 敏彦 / ANDO Toshihiko	E-mail：	tando@sendai-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(情報科学)
所属学会・協会：	電子情報通信学会, 情報処理学会, ACM, 日本物理学会, 形の科学会, 国際演劇協会		
研究分野：	情報システム学		
キーワード：	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション		
技術相談 提供可能技術：	・ 動作解析 ・ NUI や AR を用いたアプリケーションの開発支援 ・ 音声感情の分析 ・ 演劇・音声指導		

研究内容：

研究課題

- 人-人工物間のコミュニケーションデザインに関する研究
- 「弱いロボット」を用いた認知症介護支援に関する研究
- NUI や AR を用いた「自然な」情報共有支援に関する研究

研究シーズ

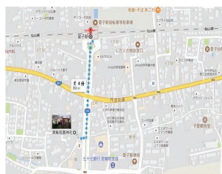
- 人-人工物間のコミュニケーションデザインに関する研究

今日、AI が一般的な技術として日常的に使われるとともに、ロボットが日常の多くの場面で利用されつつある。本研究では、ロボットなどの人工物が社会的にどのように許容されるか、あるいは許容される要件を、動作解析やフィールドワーク、演劇の手法などを利用して調査している。特に、感情を通した意思疎通をモデルに、音声感情認識や人工物の感情動作生成を実現した。その応用として、「弱いロボット」の考え方を利用した認知症者・高齢者の介護に対する支援についても取り組んでいる。



- NUI や AR を用いた「自然な」情報共有支援に関する研究

室内や屋外で投影された仮想オブジェクトを自然な身振り(NUI)で操作したり、それらとスマートフォンの画面を連動させたり、拡張現実(AR)を利用して情報提示をさせたりすることで、実空間での自然な情報共有や協調調査の支援法について開発を行なっている。その応用としてスマートフォン間の画像共有を実現した。また、その一環として、小学校の総合学習や地域学習で地域の史跡について学習するために、ARを利用したスマートフォンアプリケーションを開発している。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	